

国立国語研究所学術情報リポジトリ

表紙,目次,奥付,その他

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-03-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://repository.ninjal.ac.jp/records/2066

日本語科学

Japanese Linguistics

9

2001年4月

April, 2001

国立国語研究所

The National Institute for Japanese Language
Tokyo, Japan

日本語科学 9

Japanese Linguistics 9

国立国語研究所

The National Institute for Japanese Language

2001年4月

April, 2001

厳しさの底にあるもの 野地 潤家 3

特集：電子化資料による日本語研究

Feature : Corpus-based Japanese language studies

<研究論文> Article

サ変動詞の活用のゆれについて — 電子資料に基づく分析 —

An analysis of the morphological alternations of *sahen* verbs

田野村 忠温 TANOMURA Tadaharu 9

<研究ノート> Note

新聞漢字調査の現状と将来

A review of studies of *kanji* usage in newspapers

横山 詔一 YOKOYAMA Shoici 33

笹原 宏之 SASAHARA Hiroyuki

エリック・ロング ERIC・Long

谷本 玲大 TANIMOTO Sachihiro

<研究ノート> Note

「日本語話し言葉コーパス」における書き起こしの方法とその基準について

Transcription criteria for *the Corpus of Spontaneous Japanese*

小磯 花絵 KOISO Hanae 土屋 菜穂子 TSUCHIYA Naoko 43

間淵 洋子 MABUCHI Yoko 斉藤 美紀 SAITO Miki

籠宮 隆之 KAGOMIYA Takayuki 菊池 英明 KIKUCHI Hideaki

前川 喜久雄 MAEKAWA Kikuo

研究論文 Articles

いわゆる詠嘆・含蓄の「も」について

On the so-called : implicative usage of *mo*

島山 真一 HATAKEYAMA Shin-ichi 59

高知県方言ラ（一）の暗示性と明示性

The implicit expression and explicit expression of *ra* and *ra-a*
in the dialect of Kochi prefecture

上野 智子 UENO Satoko 79

九州における活用型統合の様相とその経緯 —『方言文法全国地図』九州地域の解釈—

On changes in the conjunction system in Kyūsyū

彦坂 佳宣 HIKOSAKA Yoshinobu 101

調査報告 Reports

高校国語教科書における外来語の使用状況

Some features of loanwords in Japanese Textbooks for Senior
high school students

橋本 和佳 HASHIMOTO Waka 123

被調査者の属性による偏りを持たない項目

—『国語に関する世論調査』（H7年度調査～H10年度調査）から—

The Public Opinion Survey of the Japanese Language (1995-1998) :

A study of items that are not accounted for by informants' attributes

田中 ゆかり TANAKA Yukari 146

世界の言語研究所（9）アイオワ大学（FLARE プログラム）

西郡 仁朗 165

平成12年度国立国語研究所公開研究発表会報告

第8回 国立国語研究所国際シンポジウム報告

既刊内容（第6号～第8号）

投稿規定・執筆要領

付録 CD-ROM について

編集委員会からのおわびとお知らせ／『日本語科学』8 正誤訂正

編集後記

既刊内容（第6号～第8号）

【第6号】（1999年10月）

- 脳から見た言語 廣瀬 肇
サエとデサエ 菊地 康人
ダケの位置と限定のあり方—名詞句ダケ文とダケダ文— 安部 朋世
愛媛県青島方言のアクセント 清水 誠治・秋山 英治
確認要求表現としての「ダロウネ」 宮崎 和人
書評 横山詔一・笹原宏之・野崎浩成・エリク=ロング編著『新聞電子メディアの漢字
—朝日新聞 CD-ROM による漢字頻度表—』 豊島 正之
世界の言語研究所（6）フランス国立科学研究センター音声言語研究所 CNRS LPL
西沼 行博
第7回国立国語研究所国際シンポジウム報告／平成11年度国立国語研究所公開研究発表会ご案内

【第7号】（2000年4月）

- 「新しい日本語」と日本語教育 阪田 雪子
「非限定」の連体修飾節に関する一考察—「眼前描写」の連体修飾節について—
ソムキヤット チャウエンギジワニッシユ
動詞慣用句に対する統語的操作の階層関係 石田 プリシラ
共同発話における参加者の立場と言語・非言語行動の関連について ポリー・ザトラウスキー
ニ格名詞句の意味解釈を支える構造的原理 和氣 愛仁
言語行動分析の観点—「行動の仕方」を形づくる諸要素について— 熊谷 智子
Japanese loanwords in Pohnpeian : adaptation and attrition MIYAGI Kimi
可能構文における格交替現象について 中村 裕昭
災害時の外国人に対する情報提供のための日本語表現とその有効性に関する試論
松田 陽子・前田 理佳子・佐藤 和之
林 徹
世界の言語研究所（7）トルコ言語協会 TDK
平成11年度国立国語研究所公開研究発表会報告
第7回国立国語研究所国際シンポジウム報告—その2—
第4専門部会／第5専門部会／第6専門部会

【第8号】（2000年10月）

- ことばのサーモグラフィ— 中西 進
連用修飾成分「ほど」句の用法について 井本 亮
関係動詞の語彙と文法的特徴—照合行為の介在をめぐって— 山岡 政紀
日本語心理動詞の適切な扱いに向けて 三原 健一
19世紀末の韓国語における日本製漢語—日韓同形漢語の視点から— 張 元哉
漢字語と仮名語における語処理の差異—英語話者日本語学習者の思考過程—
豊田 悦子・久保田 満里子
異体字に対するなじみと好み—接触印象・使用頻度との関係— 笹原 宏之・横山 詔一
明治初期小新聞に見る「です」の様相 長崎 靖子
総合雑誌『太陽』の本文の様態と電子化テキスト 田中 牧郎・小木曾 智信
世界の言語研究所（8）フィリピン語委員会 大上 正直
第8回国立国語研究所国際シンポジウムご案内
平成12年度国立国語研究所公開研究発表会ご案内

『日本語科学』投稿規定・執筆要領

(2001年4月現在)

1. 目的

本誌は、国立国語研究所における研究、ならびに国立国語研究所の研究活動と関連を有する研究の成果を公表することを通じて、広汎な日本語研究の発展に寄与しようとするものである。

2. 発行の時期

本誌は年2回(4月, 10月)発行する。(投稿の受付は随時)

3. 投稿資格

上記の目的に合致する内容の原稿であれば、投稿資格は問わない。

4. 原稿の内容と種類、分量

投稿原稿は未刊行のものに限る。なお、原則として、対象とする時代は明治中期以降とする。投稿原稿の種類と分量(タイトル, 氏名, キーワード, 要旨, 概要を含む)は以下のとおり。

研究論文: オリジナルな知見の提供を含む学術論文。(20ページ程度)

調査報告: 調査結果の記述を主とする報告。(20ページ程度)

研究ノート: 問題提起, 事例報告, 中間報告などの小論文。(10ページ程度)

各投稿原稿は、CD-ROMの形でデータやプログラム等を添付することができる。

この他、所内外の研究者に**展望論文**(研究動向, 現時点での課題, 将来の展望などについて論じた論文, 20ページ程度)、**書評論文**(20ページ程度)の執筆を依頼することがある。

5. 原稿の書式

- 1) 原稿は日本語または英語で執筆する。ただし、例文等において中国漢字(簡体字・繁体字)、ハングル、キリル文字、ギリシャ文字を用いることは可(それ以外の文字はローマ字化)。
- 2) 原稿は**A4判横書き**、**43字×36行**で作成する。(編集委員会が認めた場合にかぎり縦書きも可。A4判縦書き、30字×21行×2段。)英文の場合はマージン上下2.5cm、左右2cm(フォント12ポイント、1.5スペース)を目安に原稿を作成する。原稿はワープロを使用してできるだけ刷り上がり時のイメージに近い形で作成することが望ましい。
- 3) 研究論文及び調査報告には、**キーワード**(5つ以内)、**要旨**(問題と結論の要約, 10行程度)、**概要**(議論全体の概要, 英文は250語以内, 和文は20行以内)をつける。研究ノートには要旨とキーワードのみをつける。和文論文の場合、要旨・キーワードは日本語、概要は英語を用いる(概要には英語のキーワードもつける)。英文論文の場合、要旨・キーワードは英語、概要は日本語を用いる(概要には日本語のキーワードもつける)。英文のネイティブ・チェックは執筆者の責任においておこなう。
- 4) 注と文献は本文の後にまとめて示す。文献一覧の書式は以下のとおり。
著者名(発表年)「論文タイトル」『書名/雑誌名』巻号(雑誌の場合) ページ 発行所
例: 井上 優・生越 直樹(1997)「過去形の使用に関わる語用論的要因—日本語と朝鮮語の場合—」『日本語科学』1, 37-52, 国書刊行会
宮島 達夫(1972)『国立国語研究所報告43 動詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版

Bolinger, Dwight (1978) Yes-no questions are not alternative questions H. Hiz (ed) Questions. 87-105. Dordrecht:D. Reidel Publishing Company.

Hudson, Richard (1975) The meaning of questions. Language51. 1-31.

- 5) 付属 CD-ROM にデータ等を添付する場合は、容量やデータの形式等について、あらかじめ編集委員会に確認をとってから投稿する。

6. 査読

研究論文、調査報告、研究ノートは、編集委員会が依頼した2名の査読者が査読要領にもとづき審査する。編集委員会は、査読結果にもとづいて論文の採否を決定する。著者の氏名は査読者に公開せず、査読者の氏名も著者に公開しない。査読者と著者との連絡（査読者から著者への照会や修正指示、著者から査読者への回答など）はすべて編集委員会を介しておこなう。

7. 投稿の手続き

投稿原稿は随時受けつける。投稿に際しては、「著者の氏名／所属／連絡先（共著の場合は代表者の連絡先）／原稿の種類（研究論文、調査報告、研究ノートの別）」を明記の上、原稿一式を編集委員会に送付する。投稿原稿は原則として返却しない。

8. 採録決定後の修正

採録決定後、体裁や書式について編集委員会から著者に修正を求める（あるいは編集委員会の判断で書式の細部を変更する）ことがある。査読者及び編集委員会から指示があった箇所を除き、採録決定後の改稿や修正は認めない。

9. 著作権

- 1) 図版の転載など著作権にかかわることがらは、投稿の際に編集委員会まで知らせること。
- 2) 掲載された論文等の著作権（著作権法第27条、28条を含む）は国立国語研究所に帰属する。

投稿原稿は、下記編集委員会まで郵送のこと。

〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14 国立国語研究所『日本語科学』編集委員会

問い合わせ先、文書・FAX または電子メールで編集委員会まで。

〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14 国立国語研究所『日本語科学』編集委員会

FAX 03-3906-3530（共用につき『日本語科学』編集委員会宛明記のこと）

E-mail kagaku@kokken.go.jp

URL <http://www.kokken.go.jp/public/kagaku.html>

付録 CD-ROM について

1. はじめに

付録 CD-ROM には、『日本語科学』第 8 号・9 号に掲載された論文のうち 3 本の論文に関するデータと、『日本語科学』には直接関係がないものの、国語学・日本語学研究に資する研究文献総索引データを収録しています。

2. CD-ROM の内容

それぞれのデータに関する説明は、各フォルダのなかにある「Readme.txt」ファイルをお読みください。

- (1) 「異体字に対するなじみと好み」(『日本語科学』第 8 号 pp.110-125) 論文の調査データ (テキストファイル) と調査票 (画像ファイル) : フォルダ名「itaiji」に収録
- (2) 「被調査者の属性による偏りを持たない項目」(『日本語科学』第 9 号) の分析結果 (テキストファイル) : フォルダ名「yoron」に収録
- (3) 上記論文の引用文献 (『「国語に関する世論調査」問題別分析報告書』(2000) 付録 (pp.114-155, 国立国語研究所) : PDFファイルと Word ファイル, フォルダ名「yoron」に収録
- (4) 「新聞漢字調査の現状と将来」(『日本語科学』第 9 号) の引用文献 (「新聞記事データベースにおける「禎」の消失現象」『人文学と情報処理』(1999) No.20pp.57-63, 勉誠出版) : 本文 HTML ファイルと文字鏡 GIF ファイル, フォルダ名「shinbun」に収録
- (5) 国語学研究文献総索引データ : フォルダ名「bunken」に収録

3. 著作権について

この CD-ROM データのうち、『「国語に関する世論調査」問題別分析報告書』付録 (pp.114-155, 文化庁国語課) のデータは、文化庁に著作権があります。それ以外のデータの著作権は国立国語研究所にあります。

4. 再配布の禁止について

この CD-ROM データを、電子メディア (インターネットを含む) や紙媒体により他人に再配布しないようお願いします。

5. CD-ROM に関する質問について

『日本語科学』編集委員会へお問い合わせください。

電子メールのアドレスは kagaku@kokken.go.jp です。

編集委員会からのおわびとお知らせ

◇事前にお知らせしたとおり、本来であれば、この9号の特集は「言葉に関する定点観測調査」の予定であった。これまで、その特集に対する投稿論文がいくつか寄せられたが、実際に査読にかけてみると、採録論文として残るものがほとんどなく、特集としての最低限の体裁さえ整えることができなかったというのが、偽らざる事情である。そこで、まことに残念ではあるが、「定点観測」の特集は中止することとなった。企画の見通しが甘かったと言われればそれまでであるが、別の面から見れば、はなはだ手前味噌ながら、厳正な査読を行ったがための結果ということもできる。特集のために掲載論文の質を落とすのであれば、本末転倒のそしりは免れないであろう。あるいは、この特集を楽しみにしていた方々もあったかと思うが、以上の事情をお察しのうえ、お許しいただきたい。お詫び申し上げます。

◇「言葉に関する定点観測調査」の特集の代りというわけではないが、本号からCD-ROMを付録として添付するという新しい試みが始まることもあり、急速、「電子化資料による日本語研究」という特集を組むことにした。その特集に関する趣意は巻頭近くに掲げているので、ご一読願いたい。(伊藤雅光)

『日本語科学』8 正誤訂正

P. 80 2行目

誤：第27・28課：가할드一・二 → 正：第27・28課：가할드一・二

P. 80 下から2行目

誤：「집 (家) / → 正「집 (家) /

P. 90 下から10行目

誤：・오하라 끝머리 → 正：・오히려 끝머리

P. 90 下から10行目

誤：자마나나루 (camaninaru) → 正：자마니나루 (camaninaru)

P. 90 下から5行目

誤：『우리말도로찾기』(国語取り戻し) → 正：『우리말도로찾기』(国語取り戻し)

P. 93 7行目

誤：「近代国語 에 대한 基礎的研究(1)」 → 正：「近代国語 에 대한 基礎的研究(1)」

P. 93 10行目

誤：「開化期国語教科書 에 관한 考察—初等教育用 을 중심으로—」 →

正：「開化期国語教科書 에 관한 考察—初等教育用 을 중심으로—」

編集後記

本号は21世紀最初の『日本語科学』となった。それに合わせたわけではないが、昨年10月に編集委員の大幅な入れ替えがあり、本号が新委員の初仕事となった。とりわけ、創刊号から編集委員長だった江川氏がこの3月をもって、国立国語研究所から大学に転出されたため、伊藤がその任にあたることとなった。何かと至らぬ点が多々あるかと思うが、全力を傾けて、その任を全うしたいと思っている。

本号の英文校訂は国立国語研究所招聘研究員の大原由美子氏にお願いした。

編集委員

伊藤 雅光 (委員長, 国立国語研究所)
大島 資生 (東京大学留学生センター)
尾崎 喜光 (国立国語研究所)
加藤 安彦 (国立国語研究所)
熊谷 智子 (国立国語研究所)
鈴木 美都代 (国立国語研究所)
塚田 実知代 (国立国語研究所)
山田 進 (聖心女子大学)
横山 詔一 (国立国語研究所)

『日本語科学』 9

2001年4月

国立国語研究所

〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14
TEL.03-3900-3111(代表)

[本書の市販品発行所]

国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15
TEL.03-5970-7421 FAX.03-5970-7427

(平13-1)